



2015.12

NO.64

# 校友会会報

発行／北海道農業協同組合学校 校友会

〒069-0834 江別市文教台東町43-1 TEL011-386-4331 FAX011-387-1715



## ごあいさつ

校友会会长 栗林貞信

本校友会の事業運営に当りましては、母校であるJAカレッジの校長をはじめ学校関係者、JA北海道中央会並びに各連合会、全道の各JA、多数の会員各位から、日頃格別なご支援とご協力を賜り心から感謝とお礼を申し上げます。

わが母校は、大正10年（1921年）に北海道産業組合講習所として創立、爾来、幾多の改変があって北海道農業協同組合学校として現在に至っていますが、本年は、創立から数えて94年目を迎え、卒業生総数は、本科生のほか前身の講習所時の短期生を含め4,951名に及んでおり、うち系統農協に移管し現在のJAカレッジになって以来、今年3月の卒業生は新45期生であります。その総数は2,574名と全卒業生の過半数を超え、その多くは、JAグループの現職として活躍をしています。

この一方で、本校友会は、昭和5年（1930年）8月に北海道産業組合講習所同窓会として発足し、母校の改変などに伴い名称を変更し北海道農業協同組合学校校友会となり今年で85年目を迎えています。

こうした中で、校友会活動につきましては、会員各位から支援と協力をいただき、母校と

の連携を図りつつ活動をしているところであります。これまで定期的に発行してきた会員名簿は、個人情報保護法の制定などによって、作成が実質困難となり、又校友会よりも諸般の事情が重なり中断していましたが、このたび再発行できたところであります。

また、支部活動を補完するため、各JAに連絡責任者及び担当者を置き、校友会と会員のパイプ役をお願いすることとし、逐次報告を受けていますが、それぞれ人事異動などに伴って交代されていると仄聞していますので、変更の報告をお願い申し上げます。

近時の事業で特記すべき事項として、JAカレッジの大規模改修に伴う、講堂の改修に関連してOA機器を更新されましたが、その一部に対し物的支援の協力を致しました。

この4月にJAカレッジに入学しました新46期生は、女子生徒の5名を含む56名が、目下JA職員となるべく勉学に精励されており、卒業と同時に会員となります。これまで、一般企業など就職事情が総じて良いときほど、本カレッジの学生の募集・確保に腐心するという経験則があり、最近がその時期にあたると聞き及んでおりますので、校友会会員の維持・確保の見地からも、この間の事情をご斟酌していただき本校友会として

ご助力をしたいものであります。

最後に、校友会活動も母校との連携を一層図りながら進めて参りますので、会員の皆様

には、それぞれの置かれている立場で、ご支援とご協力をお願い申し上げますとともに会員皆様のご健勝を祈念申し上げます。



## 「はつらつ」とした 人材育成をめざして

J Aカレッジ校長 西 埼 裕 司

校友会の皆様には、日頃から本校の事業運営にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

平成27年度の学生の就職状況ですが、46期生56名（うち女子5名）について、全員がJAもしくは関連団体への就職が内定し、来年の4月にはJAマンとして旅立ちますが、校友会の皆様方には、彼らに対して厳しく愛情のあるご指導を賜りますようお願い申し上げます。

また、平成28年度の学生の受験状況ですが、90名弱の応募者があり、12月8、9日に入学試験を行い、定員60名の中で優秀な学生が入学してくることを期待しております。入学後は本校の教育理念である「はつらつ」とした人材育成をめざし、「積極性」「協調性」「使命感」のある人材を道内JA等に斡

旋できるよう鋭意努力してまいります。

一方、役職員の研修については、平成26年度の研修参加人数が過去最高の2,347名となり、平成27年度も概ね計画通りとなっておりますが、中堅職員研修の参加者が減少傾向にあるなどの課題もありますので、それらの課題解決に向けた取り組みに尽力してまいります。

最近の農業・JAをめぐる情勢は、TPP問題、農協改革にかかる農協法の改正等非常に厳しいものがあります。そのような中でJAカレッジとしては、先の第28回JA北海道大会で決議された「自ら学び、気づき、成長することができる人づくり」の実践のためにJAグループ北海道の教育センターとしての役割を果たすよう努力してまいりますので、校友会の皆様方のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 第8期生同期会開催される

新8期生 清 水 和 夫 (JAさっぽろ定年退職)

2014年8月2日（土）午後6時、札幌全日空ホテルにて第8期生同期会が開催されました。

1978年3月卒業、全道各地のJAグループに就職し、北海道農業の振興と組合員の安定した営農と生活の確保を目指し、かけがえのない家族の為に尽力すること早36年が経過、定年退職を迎え第二の人生を歩む同期生が出てきたこともあり今回の開催となりました。

北は稚内市、南は函館市、東は網走市・標茶町をはじめ全道各地から同じ釜の飯を

食った卒業生59名のうち23名が出席、在校時教職員を代表し啓北寮にて数か月舎監をされた西埜 裕司氏（現JAカレッジ常務理事兼学校長）を含め合計24名が集まりました。

入学当時は「紅顔の美少年」も今や、頭部と腹部が大きく様変わり「紅顔ならぬ厚顔」はたまた、メタボおやじの象徴「赤ら顔の中高年」に大変化…オッとこれは失礼

西埜 裕司氏からJAカレッジの現状説明を兼ね来賓あいさつ、当時の自治会長 鷺田 正氏（現JA道央 常務理事）の乾杯により懇親開始、昔話に花が咲き、酒呑童子の8期生は食べ物に目も向け

ず手つかず・・・ああ勿体無い  
名残惜しいひと時も、当時の運動青年 島田 祐司氏（JA北宗谷 定年退職）の結びの乾杯にて中締め  
閉会挨拶は佐々木 禎氏（JAそらち南常務理事退任）、次回は十勝地区にて開催したい旨提案、十勝地区同期生から「任せなさい」との力強い宣言により、万雷の拍手飲み足りない8期生の為、事前予約した

### 同じホテルにて二次会

赤ら顔の中高年はさらに河岸を換え、全道一の繁華街ススキノへ繰り出し、某同期生行きつけのスナックにて、飲むは歌うはの大三次会

8期生のみなさん全道各地から出席お疲れ様でした。

次回、さらに多くの同期生が十勝地区で再開できる日を待ち望んでおります。



## 農協学校を卒業して

45期生 石田 真紀

農協学校入学当時の私は、一緒に入学した同期生の中でも飛び抜けて気が弱く、人見知りの激しい気性であったため、周りの方々に多大な迷惑をかけてしまっていました。今となっては笑い話ですが、当時はマイクも声を拾ってくれないぐらいの引っ込み思案でした。

そんな私が、自分自身を変えるきっかけを作ってくれたのが、農協学校での1年間でした。

限られた期間の中で、共同生活を通して助け合うことの大切さを学び、沢山の楽しい思い出を同期の皆と共有しました。挫折そうになった時に支えてくれた友人は、

卒業した今でも親身に相談にのってくれています。

こうした学校生活が、気持ちを前向きにさせてくれたお陰で、自分に自信が持てるようになりました。たった1年でも人は変わるものだと、身を以て体験した学校生活でした。

私は現在、ご縁があり計根別農協で働いています。良くも悪くも理想と現実では大きく異なり、目の前の仕事を片付けるのに精一杯の日々が続いています。職場の先輩方に助けてもらいながら、一歩一歩確実に前進できるように努力している最中です。まだまだ未熟者ですが、今度は自分が誰かを助ける側になれるよう、研鑽を積んでいきたいです。

## 編集後記

第65号校友会会報発行にあたり、前号より1年8ヶ月と間が空き、事務局の不手際を深くお詫び申し上げます。

現在、校友会活動の活性化を図るべく、主に支部活動やJA単位に連絡責任者の配置など取組を行っております。

校友会会報におきましても、同期会の開催状況の紹介や各卒期の会員の近況等を掲載し、会員相互の情報交換の場に拡大できればと考えております。

今回の発行にあたり、寄稿願った清水さん石田さんには、ご多忙中のところ本当にありがとうございました。

今後も事務局からのお願いや、会員の皆様からの情報により、会員の皆様の近況等型にはならない情報交換の場として自由に活用していただける会報作りを進めていきたいと思っております。

北海道農協学校校友会 幹事長 高橋 英二